



### CONTENTS

- P1 【活動報告】地域 ITS 推進研究会開催報告(第1回)
- P2 【活動報告】地域 ITS 推進研究会開催報告(第2回)
- P3 【活動報告】地域 ITS 推進研究会開催報告(第3回)
- P4 【お知らせ】講演会開催のご案内

## 活動報告：地域 ITS 推進研究会開催報告

平成 15 年度第 1 回

日 時：平成 15 年 12 月 15 日(月) 18:00~20:00

場 所：(財)北海道道路管理技術センター会議室

参加者数：27 名

概 要：観光情報をキーワードに、情報のビジネスへの活用、観光情報研究会の紹介など、それぞれの活動内容をご紹介いただきました。その後、それぞれの話題について活発な意見交換が行われました。

### 1. 話題提供

「電子タグによる観光流動データベース活用ビジネス」  
(独立行政法人北海道開発土木研究所

特別研究員 有村 幹治 様)

三浦・青木賞にてファイナリストとなった『電子タグによる観光流動データベース活用ビジネス』を題材に、観光情報の収集から、ビジネス化への展開についてご紹介いただいた。

・従来、観光客の入り込み数のデータは行政で把握していたが、どこからどこへ観光客が移動しているのかという「観光行動」は、官民ともにデータが不足していた。

・事業形態として3段階の事業形態を考えている。

観光用周遊パスポートやスタンプラリー帳を対象とした電子タグ発行事業

パスポートやスタンプラリー帳等の電子タグ利用履歴の収集による観光流動データベース構築事業

観光流動データベースを用いたコンサルティング事業

・今回紹介した事業形態のほか、スタンプラリーの管理代行業務、マイレージ発行によるリピーターの育成事業などの発展が考えられる。



(写真) 講演の様

### 2. 話題提供

「情報観光学会について」

(観光情報学会 理事 金村 直俊 様)

「情報観光学会」の設立とその活動についてご紹介いただきました。

・観光情報学会は、観光と情報の融合による新しい学問領域の創出、人材育成、観光振興による地域の活性化への貢献を目的としている。

・将来像としては、 会員限定のソサイアティであること、

会員であること自体がステータスとなるような活動を行うこと、 実践者(実践のプロ)と研究者(研究のプロ)がその成果を相互に公表し、その成果が実践と研究に大きなインパクトを与えて社会貢献できるようになること、といったことを目指している。

・情報学会は総会の下、活動主体であるX(エックス)観光情報学研究会で組織されており、会員はこのいずれかの研究会に属している。

・現在7つのX(エックス)観光情報学研究会があり、札幌や沖縄などの地域に着目したものから、北大学生など所属組織に着目したもの、また、スノーリゾートなど産業に着目したものなどさまざまである。

### 3. 意見交換会

#### 1) 話題提供 について

・電子タグによる観光流動データベースは、手間や費用をあまりかけずに今まで得られなかった動態基礎情報を容易に手にすることができる。

・官がデータ収集を行い、その中で必要なデータを利用して付加価値を付け広げていくのは民ではないか。

・このような手法で観光のポテンシャルを引き出すことができれば、北海道の観光産業が成長していくのではないか。

・電子タグは、公共交通への展開も考えられる。

・従来のパーソントリップ調査はアンケート表に記入する項目が多く、調査対象者に大きな負担をかけていたが、この技術と組み合わせることで、容易に調査することができる。

・このように電子タグ、GPS、紙などのメディアにとらわれずにデータを有効利用するとよいのではないか。

・現在、道の駅のスタンプラリーでは、集計、チェックなどの作業に手間と時間がかかっている。この仕組みによって、これら作業の軽減ができる。

・海外ではITSがビジネスとして成り立っているが、日本では、ITSへの取組みは官が主体でビジネスに結びついていない。

#### 2) 話題提供 について

・観光情報学会は、今後研究会を増やしていく予定であり、そのための会員を募集している。

・研究会は、観光地以外のところもターゲットにするのはどうか？

・地域の方の意思で研究会を立ち上げているので、その方たちに研究会を立ち上げる意志があればできると思う。

・学会の研究内容については、基本的に公開しない。会員内の情報としている。

(以上)

平成 15 年度第 2 回

日 時：平成 16 年 2 月 3 日（火）18:00～20:00  
場 所：（財）北海道道路管理技術センター会議室

参加者数：17 名

概 要：ITS 世界会議の概要の紹介、今冬より実験を開始する「しりべし\* e 街道」の取組み内容の紹介をしていただきました。その後、それぞれの話題について活発な意見交換が行われました。



（写真）発表および討議の様相

### 1. 話題提供

「第 10 回 ITS 世界会議（マドリッド）に参加して」  
（独立行政法人北海道開発土木研究所  
道路部防災研究員 上村 達也 様）  
（日本気象協会北海道支社道路気象グループ  
課長 丹治 和博 様）

2003 年 11 月にマドリッドにて開催された ITS 世界会議に参加されたお二人から、世界会議の概要、テクニカルセッション、テクニカルツアー、展示会などの模様について紹介いただきました。

- ・ ITS 世界会議は、世界 3 地域を代表する ITS 団体（ERTICO、ITS America、ITS Japan）が共同で開催する ITS に関する世界最大の国際会議である。
- ・ 会議は毎年開催されており、開催地は 3 団体が持ち回りで決めている。2004 年は、名古屋にて開催予定である。
- ・ EU では、事故回避、軽減などの事故対策を強く推進（eSafety）しており、事故死者数を半減することを目標に、1 億 6 千万ユーロもの開発事業費を投入する予定である。
- ・ 欧州独自の衛星測位システム「ガリレオ」が 2003 年 5 月試験開始、2008 年運用開始予定であり、注目されている。
- ・ 本会議では、約 230 セッション、900 以上の発表が行われた。
- ・ 北海道開発土木研究所から 3 つの論文を提出し、「利用者ニーズ」、「イベントマネジメント」、「都市の情報サービス設計」のプレゼンテーションセッションで発表を行った。
- ・ マドリッドは、ヨーロッパの中でも、5 本の指に入る渋滞の激しい都市である。市が運営しているバスを年間 550 万人が利用しており、バスが管制制御されている。バス管制センタでは、ITV カメラにより渋滞を把握し、各バスへ無線にて連絡している。また、警察も別途 ITV カメラを各所に配置しているが、情報の共有はしていないようである。
- ・ バス停、バス車内の案内板を遠隔制御することにより、バス利用者へ情報提供を行っている。
- ・ 展示会は、開催地（ヨーロッパ）の展示が多く、イラク戦争の影響が、アメリカの展示はほとんど見当たらなかった。

### 2. 話題提供

「しりべし\* e 街道の取組みについて」  
（北海道開発土木研究所道路部防災雪氷研究室  
主任研究員 山際 祐司 様）

今冬から、後志管内で始まる官民連携による冬期道路情報提供実験の概要についてご紹介いただいた。

- ・ 道路管理者と地域の方々から収集した道路・気象情報を組み合わせ、きめ細やかな冬期の道路情報を道路利用者に提供することにより、安全、快適な道路環境、地域振興の支援を目的としている。
- ・ 実験主体は、開発土木研究所、（財）北海道道路管理技術センタ、（財）日本気象協会、小樽開発建設部で、後志観光連盟に協力いただき実施している。
- ・ 提供する情報は、実施機関のテレメータ、天気予報等のほか、地域のボランティア（コンビニ、ガソリンスタンドなど）が自らの判断で発信する路面や道路状況などの情報である。
- ・ 情報を提供するボランティアは、店舗の PR をすることも可能である。
- ・ 情報のリアルタイム性を高めるため、ボランティアの情報は、入力後 4 時間で自動的に削除される。
- ・ e 街道は、RWML（道路用 web 記述言語）を活用することによって、分散した情報を容易に利用できる仕組みとしている。
- ・ e 街道は、官民連携によるきめ細やかな冬期道路情報提供サービス。北海道らしい冬型のボランティアサポートプログラム。道路管理者の持つ情報の有効活用。地域の活性化を目指している。また、今後は全道への展開を視野に入れている。

### 3. 意見交換会

#### 1) 話題提供 について

- ・ ITS 技術は成熟してきており、今後は、より利用者ニーズにそった技術開発が求められる。
- ・ ヨーロッパでは渋滞対策よりも、交通事故対策を重視する傾向がある。2010 年までに交通事故を半減するという目標がある。
- ・ バス交通網が発達しておりバスレーンが多い。地下鉄との連携もとれている。
- ・ マドリッドをはじめスペインではロータリー交差点が多く、高速道路でも適用されていた。

#### 2) 話題提供 について

- ・ e\* 街道は民の情報を確保することがポイントである。
- ・ e\* 街道では、質・量の確保するためのひとつとして、選択式の入力フォーマットとするなどを用意している。
- ・ コンビニ、スタンドなどに広く案内を出しており、実験開始までに、協力していただけるボランティアが増えることを期待している。
- ・ しりべし i ネットの i センタが通信員や i センタ利用者（バス、トラック運転者等）から情報を集めており、情報入力はパスワード管理している。
- ・ 評価手法として、情報提供者の評価と情報利用者の評価を考えている。なお 情報利用者の評価として、情報を得てどういう行動をとったかなどのアンケートを web 上で行う予定である。
- ・ 情報が 4 時間で消えるのはもったいないので、例えば 4 時間以内の情報は赤点滅、12 時間以内の情報は薄赤など、もう少し長い時間表示してあっても良いのではないかと。
- ・ 過去のボランティア情報を検索が可能になるとより有効に利用できるのではないかと。例えば、昨日の今頃の路面状況などがわかれば便利だと思う。

- ・現時点では、リアルタイムな情報を優先して提供しているが、情報提供の頻度などについては、本年度の実験の結果、利用者の意見を聞いて改良していく予定である。
- ・除雪情報などの提供は、スマート実験においても利用者ニーズが高かったが、提供する道路管理者への負担が大きいため今回の実験では行わない。ボランティア情報のコメント欄に入れていただければ効果が高い。
- ・カメラ付携帯電話からの画像を取り込む技術は現在開発中である。
- ・本実験は2カ年で実施する予定で、今年の実験結果の改善点などは来年の実験に反映していく予定である。

平成 15 年度第 3 回

日 時：平成 16 年 3 月 12 日（金）18:00～20:00

場 所：（財）北海道道路管理技術センター会議室

参加者数：24 名

概 要：次世代インターネット技術を活用した ITS ビジネスへの取組み、A P S モデルによる車両位置情報提供サービスについてそれぞれの活動内容をご紹介いただきました。その後、それぞれの話題について活発な意見交換が行われました。



（写真）発表の様様

## 1. 話題提供

「インターネット ITS 協議会の最近の状況について」

（日本気象協会 MICOS 本部 MICOS 企画部

部長 滝谷克幸様）

次世代インターネット技術を活用して、ITS ビジネスの創出・活性化に取り組んでいる協議会の活動状況についてご紹介いただきました。

- ・インターネット ITS 協議会（以下 IIC）は、2002 年 10 月に設立され、現在 113 団体が参加している。
- ・IIC では IPv6 情報基盤によるオープンでシームレスな情報プラットフォームの構築、異業種間のコラボレーションによる新たなビジネスの創造を目指している。
- ・IIC は、総会、幹事会のもとアプリケーション部会、プラットフォーム部会、実用化実験部会、基礎研究部会の 4 つの部会がある。部会にはそれぞれにワーキング、サブワーキングがある。
- ・アプリケーション部会では主に、アンケートによるニーズ調査などから、ビジネスアイデアを醸成し、ビジネスモデル・要求仕様を策定している。
- ・部会内の情報は、次のビジネスにつながる情報であるため基本的には公開はしていない。
- ・プラットフォーム部会では、インターネット ITS を支えるオープンなプラットフォーム（基盤となる技術）の仕様を策定している。
- ・実用化実験部会では、アプリケーション部会、プラットフォーム部会から引き継いだ要求仕様をビジネスにつなげる実験を行っている。
- ・基礎活動は、包括的なインターネット ITS の標準化仕様の普及について促進活動を行っている。

- ・IIC は経済産業省のバックアップを受けているが、基本的には、会員の負担で活動を行っているため、部会内の活動成果をビジネスにつなげることは自由である。
- ・IIC では、2004 年世界 ITS 会議にて、体験ツアー、ショウケースのデモを具体的に検討している。
- ・気象協会では A P 部会にて、プローブカーを用いた情報と気象データを融合・加工し、付加価値のある情報として車への気象コンテンツを提供するという取組みを行っている。
- ・プローブ情報については、プローブ情報 SWG にて、データ活用の実現性、利用価値（ニーズ）の検討、実証実験仕様の検討を行っている。
- ・プローブ情報の対象としては、位置、ワイパー強度、A B S などの情報から、降雨・降雪、路面状況など、ドライパーが運転しづらいと感じる情報に加工する取組みを行っている。
- ・横風情報は、情報の利用が限定されるため、ビジネスに結びつきづらい。また、大気汚染は、プローブでの情報収集が難しいことから、収集対象外としている。
- ・車への気象コンテンツの提供では、車の位置情報を携帯電話、無線通信システム（D S R C）などで受信し、目的地や経路の天気、渋滞などのダイナミックルートガイダンスなどを提供する実験を行っている。

## 2. 話題提供

「ASP モデルによる車両位置情報提供ソリューションについて」

（沖電気工業株式会社システムソリューションカンパニー 交通システム本部 事業政策推進課 課長 高田博様）  
コストパフォーマンスに優れた A S P 車両位置情報収集サービスの概要、およびそれを活用した様々なビジネスモデルについてご紹介いただきました。

- ・A S P 車両位置情報収集システムは、センターで収集した G P S 位置・車両情報をインターネット経由で配信するサービスである。
- ・A S P 事業者がシステムを保守管理するため、利用者は設備投資、維持管理を負担する必要がない。
- ・費用負担が少ないため、導入・継続が容易である。バスロケーション、運行管理との連携が図れるなどシステムの柔軟性が高い。常に新しいメディアや最安値のサービスに柔軟に対応できることが特徴である。
- ・車両位置情報、プローブデータのダウンロードは、標準的なパケット通信網やインターネット網を活用している。
- ・プローブ対応情報収集は、1 台あたり月額約 8500 円からサービス提供している。
- ・ジャイロ情報にも対応しているので、G P S 不感エリアでの情報収集が可能である。
- ・バスロケ対応をはじめとする、各種カスタマイズにも対応し、柔軟なシステム構築を実現している。
- ・会津若松、三重で、A S P をバスロケーションシステムに活用しているほか、全国で多くの導入事例がある。
- ・札幌市の場合、A S P を除雪管理システムとして活用することにより、効率的な人員配置など作業の向上を図るなど有効な利用方法がある。
- ・この際、車載機に操作ボタンを取り付けることにより、車両状態をセンターに通知するなど、さまざまなシステム拡張が可能である。

## 3. 意見交換会

2 件の話題提供の後、主に次のような内容に関して意見が交わされました。

- 1) 話題提供 について
  - ・ ITS 協議会での活動にかかわる参加企業の費用
  - ・ ITS 協議会の参加企業間での情報交換や、参加していない非会員企業への情報公開について
  - ・ 各 WG 及び SWG での活動の温度差や、参加企業の取り組み状況について
  - ・ ITS 協議会の WG、SWG での取得データの扱いなど
- 2) 話題提供
  - ・ APS 車両位置情報収集システムの特に目新しい活用実績と、北海道を中心として今後展開できそうな活用アイデアなどの意見
  - ・ APS 車両位置情報収集システムを取り入れた場合の費用について
  - ・ 取り付ける車両側でのメンテナンスや車載器の設定条件の変更についての対応など

## ITS 講演会開催のご案内

北海道 ITS 推進フォーラムでは、北海道土木技術会道路研究委員会との共催、ITS 世界会議愛知・名古屋 2004 日本組織委員会の後援により、講演会を開催することといたしました。

### 開催趣旨

北海道における今後の ITS にもとめられるキーワードとして「観光、冬道、災害」が挙げられます。今回の講演会では、先ごろの豪雪の経験を踏まえ防災の観点から各方面の取り組みを紹介しつつ、今後の情報収集提供を含め ITS の活用について考えるものです。

日時：平成 16 年 4 月 22 日（木） 13:30～17:00

場所：ホテルニューオータニ札幌（中央区北 2 条西 1 丁目）

参加料：無料（定員 120 名）

### プログラム

開会挨拶（13:30～13:40）

基調講演（13:40～14:10）

「仮題：今冬期の道東を中心とした豪雪について」

札幌管区気象台 技術部長 横田 崇 氏

話題提供（14:15～15:00）

1) 北見市役所 都市建設部次長 田中 俊幸 氏

「仮題：北見市における豪雪の影響と課題」

2) 北海道開発局（調整中）

3) 北海道大学工学研究科 助手 岸 邦弘 氏

「仮題：冬期交通問題と ITS」

休憩（15:00～15:10）

パネルディスカッション（15:10～16:40）

災害時における情報の収集提供のありかたについて

今後の北海道に求められる道路情報サービスとは

パネリスト（予定）

札幌管区気象台技術部長 横田 崇 氏

北見市都市建設局次長 田中俊幸氏

北海道大学大学院工学研究科 岸 邦弘氏

北海道開発土木研究所防災雪氷研究室室長 加治屋氏

（生活者の視点で女性パネラー：調整中）

質疑応答（16:40～16:50）

閉会（16:50）

++++++  
 （なおプログラムにつきましては今後変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください）

### お申し込み方法

電子メールまたは FAX にてお申し込みください。申込締切は 4 月 20 日（火）です。

### 電子メールの場合：

「講演会出席希望」と記載の上、会員名称、電話番号、FAX 番号、メールアドレス、参加人数を記載の上、info@hokkaido-its.jp まで。

### FAX の場合：

同封の申し込み用紙に必要事項記載の上、011-232-0048 北海道 ITS 推進フォーラム事務局 までお送りください。

## 事務局よりお知らせ

フォーラムでは各種連絡・お知らせ、特別会員の国・地方自治体の方からの事業や公募のご案内等を電子メールでお伝えしております。電子メールアドレスをお持ちの方で、まだ登録がお済みで無い方は、この機会にぜひメールアドレスをお知らせください。info@hokkaido-its.jp または 011-232-0048(FAX) で受付しております。ご連絡の際は、会員名と電子メールアドレスを忘れずお願いいたします。

連絡先が変更になった場合は変更申込書（ホームページからダウンロードできます）をご利用の上、郵送または FAX で事務局まで送付願います。

### 年会費納入のお願い

平成 15 年度分の年会費をまだお納めになっていない方は至急お納め願います。なお振り込み手数料は各自でご負担願います。

（振込先）北洋銀行札幌市役所支店（普）3169840  
 北海道 ITS 推進フォーラム

平成 16 年度分の年会費納入については 5 月頃ご案内予定です

会報第 10 号は平成 16 年 6 月発行予定です。

編集 発行 / 北海道 ITS 推進フォーラム (Hokkaido ITS Forum)  
<http://www.hokkaido-its.jp/>

事務局 / 〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 MN ビル 10 階 札幌総合情報センター(株)内

TEL 011(232)4848 FAX 011(232)0048

E-mail info@hokkaido-its.jp

事務局長 蓮井 七男、事務局員 金村 直俊、安藤 浩司